只見短歌会　八月詠草

大塚栄一　指導

今朝もまた夫の採り来し野菜多く配りゆく家を数へ戸惑ふ　古川　英子

お下げ髪のわれにリボンを付けくれしかの人今は如何に老いしか　斎藤ちひろ

妹と風呂に入りて亡き母の思ひ出語り共に涙す　五十嵐英子

新聞を配るに乗りし石車朝の体操役立ちかはす　五十嵐夏美

八十代半ばのわれが生家にて迎へ火焚けばうから集ふも　吉津　政枝

また一つ病名加はる我がカルテ年とは言へどさみしさのあり　馬場　八智

長梅雨に案じし稲田も日を浴びて白き花弁水面に散らす　渡部ゆき子

連泊の客帰らねば法要の斎出来がたく他所に依頼す　皆川　恒子

目の手術受けて退院せし媼買ひ替へたのかとテレビ見て言ふ　目黒　富子

土産にと猫の絵はがき手渡され優しき顔に作者を想ふ　渡部ヨリ子

曇りと雨多く続きて育て来し色の冴えざる花痛々し　新国　洋子

只見俳句会　九月例会

目黒十一　指導

菓子折りの解かれず積まれ盆座敷　一穂

足元に野菊の花や稲防除　敦子

朝曇り農薬散布の音響く　礼

秋の蝶両手で囲み逃がしやり　礼

新涼やダム堰堤は二番芝　一

只見湖をめぐる晴れ間や法師蝉　修一

家々に県外ナンバー盆来たる　一灯

街頭演説じっと見上げる夏帽子　一灯

もぎ立ての胡瓜の刺の健気なる　又壱歩

山百合や草に埋もれし境界標　又壱歩

夏木立四辻に地蔵尊立てて　邦男

池の鯉呑んで吐き出す落し文　邦男

星空に踊太鼓の流れくる　吉児

大会の福祉の里の盆おどり　吉児

新涼やからむし織の筬の音　隆堂

爆け止まずよ競演の揚げ花火　隆堂

まつわれる草の実こぼる野良着脱ぐ　邦夫

高原の入日や広き蕎麦の花　邦夫

子を迎ふ乗りよさそうな茄子の馬　笑羊

鬼灯をならす姉には弟子二人　笑羊

キッチンに畑のにおいや盆の月　康女

迎火や父の椅子より暮れゆきて　康女

なつかしき人に出会うも盆の道　リウコ

蝉の殻風に吹かれて光りおり　リウコ

農業に嫌気さしたる炎暑かな　

新涼や雨止み手足伸ばしみる　